

榛名神社

勝瀬（町名変更前に「勝瀬」であった「ふじみ野東、西」地域含む）の総鎮守

鎮座地： 埼玉県富士見市勝瀬 7 9 1 番地

祭神： 埴山姫命（はにやまひめのみこと） 土に宿る生命を司る姫神
豊受姫命（とようけひめのみこと） 食物を司る育成守護の姫神



＜村社碑 及び 鳥居の前からの拝殿を見る＞↑

鳥 居

鳥居の額束 文字が消えている



拝 殿



正面から（三方破風）↑



本 殿



↑ 右横から

← 神紋： さがり藤



↓ 木鼻の彫刻



社務所の右側に掲示されている説明文より



■信仰：

農耕守護 五穀豊穰 生命育成の信仰があります。

また昭和頃「乳に白髪、火防に雨乞い」と言われております。白髪の願掛けは特に若い白髪に御利益があると言われました。白髪の願掛けは麻一房を半分墨で黒く染め奉納し願い掛け、大願成就の暁に今度は麻を全部黒く染めて御礼参りに奉納します。

昔、ある娘さんは夏の暑い日に当社に願掛けに来て日射病にかかり、髪が全部抜けてしまったが、しばらくして黒髪がそっくり生えたという事が語られています。

昭和の始め頃、東京の米屋の娘さんが若白髪で困っていたのが、当社に願い掛けて黒髪に戻り、めでたく良縁に恵まれたと御礼に白米三俵を奉納されました。

戦後も花街の女将達が、供を連れて参詣の姿がしばしば境内にありましたが、昭和50年頃よりこの様な姿はすっかり見受けられなくなりました。

最近では安産祈願、初宮詣、家内安全身体健康、諸々の心願成就と、様々な参拝が多くなっております。

■由緒（歴史由緒）：

詳細創立年代は不明。

本社再建が文明九暦丁酉年（室町中期 西暦1477年）四月十日武州入東郡勝瀬村大願主**林光防**武州吉見領小泉村大工加藤奎之助と棟札に明記されている。川越城主松平大和守の崇敬あり毎年御供米一斗五升宛下附せられた。明治五年村社に列した（明治三十九年四月神饌幣帛料供進指定）。

■伝説：

当社の創建に関する地元の言伝え「**お船山伝説**」があります。

一説には、その昔この辺が海辺だった時に、榛名様がお供のお二方をお連れになって、船に乗られて遠くからこの地に来られました。船は無事に岸边（現在の榛名神社の南端にあたる海岸線）に到着し、めざす陸地に上がることができました。岸边に繋いでおいた船はいつか岸から離れ、海上を漂い、「お船山（神社南方約100mにある地・現地の説明看板を御参照）」に沈みました。ちなみにお連れ的神様は船頭をなされた**鷺森大権現様**と**大弁才天女様**のお二方です（現在、鷺森様は駒林、八幡神社境内と鷺森小学校西方に鎮座されています。弁天様は明治初めまでお船山に鎮座されていましたが今は榛名神社境内に祀られています。）

またもう一説には一行の船がお船山で沈み困ったが、神社南端の岸边からのびていた大きな藤の木の蔓を伝って神様達が陸に上がりこの地に鎮座されたという説もあります。

ちなみに古来、神仏習合時代の榛名様を「**日本藤島榛名満行大権現**」と言いました。

■ 摂末社：

稲荷神社	祭神 宇加御魂命（うかのみたまのみこと） 例祭二月初午。 天明三年（西暦 1783 年）建立と伝わる。 明治 40 年 6 月 5 日字稲荷窪の稲荷社、稲荷前の稲荷社、屋敷廻りの稲荷社、屋敷廻りの稲荷社の四社を合祀。
富士神社	祭神 木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと） 明治 41 年 6 月 13 日当字茶立久保より移転。
藤塚神社	祭神 稚産霊命（ちごむすびのみこと） 創立年月不明。 寛政 6 年（西暦 1794 年）3 月吉田願主塩野半平再建すとある。
巖島神社	祭神 市杵島姫命（いちきしまひめのみこと） 船山弁財天と称したが明治維新に至り上記の神であることから明治 7 年 5 月社名を改め当字谷田（お船山）より遷座。 昭和 27 年 5 月社殿改築
巖島神社	祭神 市杵島姫命（いちきしまひめのみこと） 創立年月不詳。享和壬戌年四月当村塩野源右衛門再営の棟札がある。 明治 41 年 6 月 17 日当字谷田（お船山）より移転。
大六天神社	祭神 大己貴命（おおなむちのみこと） 創立年月不明。 昭和 27 年 5 月社殿改築
疱瘡ほうそう神社	祭神 大禍津日命（おおまがつびのみこと） 安永年間（西日本を中害が襲った享保の大飢饉。東北地方等の冷害を発端とする天明の大飢饉の時代）村内にて建立したと伝えている。

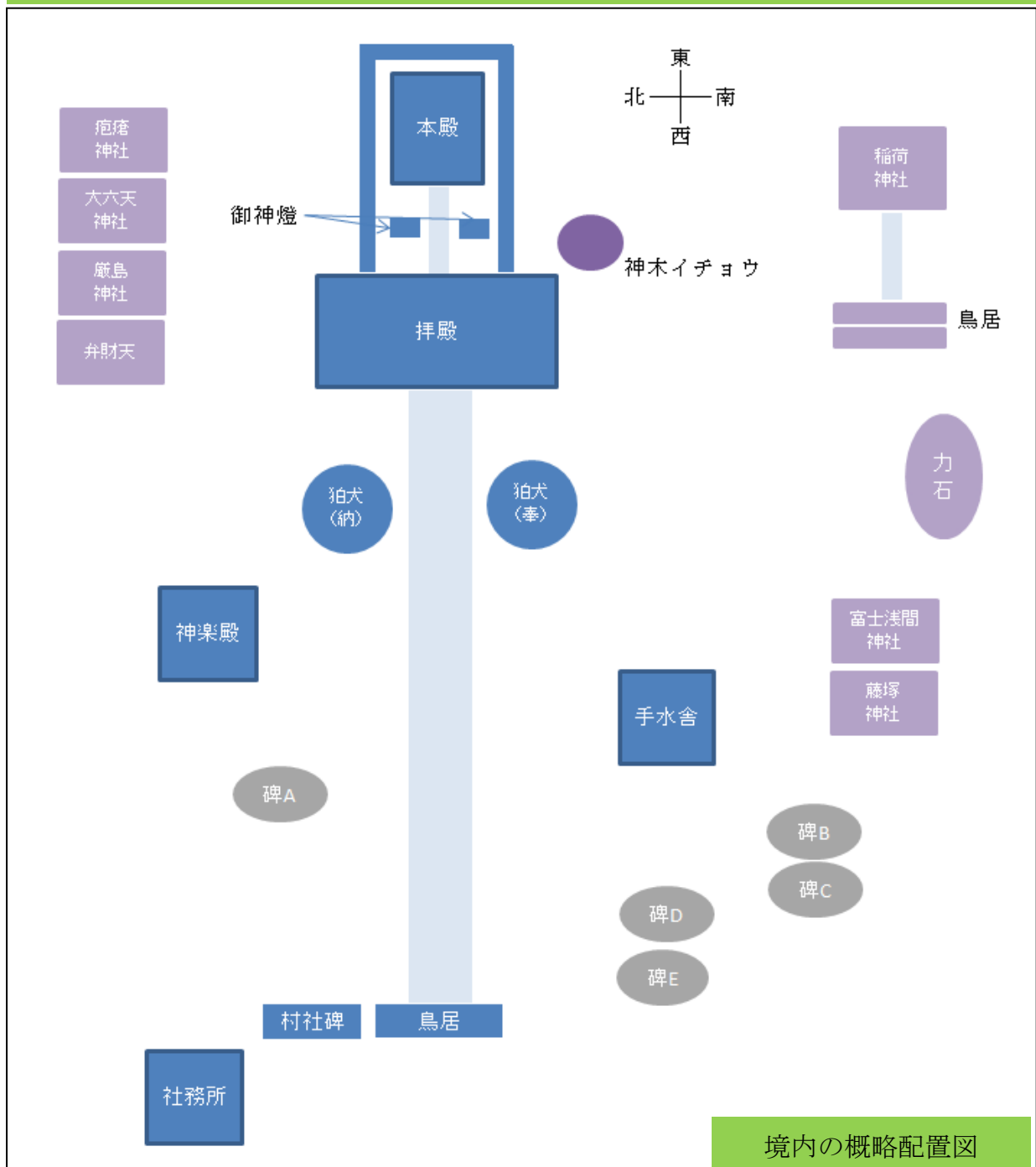
■ 祭典（年中行事あるいは祭事）：

一月一日	元旦祭（がんとんさい）
二月三日	節分祭（せつぶんさい）
二月二十日	祈年祭（きねんさい）（五穀豊穰・諸事繁栄祈願祭）
三月初午日	境内稲荷社祭 初午（はつうま）
四月十日	例大祭（れいたいさい） 神楽・囃子・植木市・露店あり
四月十一日	後日祭 植木市露店あり（おもに午前のみ）
五月一日	塞祭（ふせぎまつり）
五月十日午前	苗木市（社殿周辺にて）
七月二十八日	夏越大祓式（なごしおおはらいしき）（茅の輪くぐり）
十一月適宜日	七五三
十一月二十日	新嘗祭（にいなめさい）（新穀感謝祭）
十二月下旬	冬至星祭
十二月二十八日	釜注連（かまじめ）頒布

★神社の説明文に「一説には・・・」という表現になっているように、「榛名神社」に関わる、数々の伝説や昔ばなしがあります。

■伝説：またもう一説には・・・の内容

当社には創立に関わる「お舟山伝説」があります。大昔、榛名神社一帯が海であった頃、榛名大権現・薬師如来・貝塚稻荷の三方が鉄の舟に乗っていたところ、運悪く舟が沈没し、貝塚稻荷は貝塚山に、薬師如来は西の方に、榛名大権現は大きな藤の木につかまり上陸し、現在の社に鎮座したといわれています。舟が沈没したところは「お舟山」といわれ、藤の木のあったところを藤島と呼ばれています。



★以下に、「富士見市史」、「ふじみの伝説・昔ばなし」、「ふじみ・発見」、「郷土富士見検定問題集」等から、神社の説明文に書かれていない内容を補記。

手水舎



<手水舎>

神楽殿



<神楽殿 例大祭 風景>

狛 犬



神木 イチョウ



補記：

勝瀬の榛名神社境内に市指定天然記念物の銀杏（イチョウ）があります。樹齢約400年・樹高約20m・幹周約4.7mです。

銀杏には雄木と雌木があり、雌木のみにも実を付け「ぎんなん」と呼び11月頃熟成し落下します。食用として好まれるが、食べ過ぎると（特に幼児）中毒になることがあります。

昔から、銀杏には気根と呼ばれる垂れ下がった乳房状の突起が生じ雌木（めぎ）に祈願（きがん）すると乳の出が良くなると伝えられています。

摂末社： 稲荷神社



補記：

「お舟山伝説」榛名大権現・薬師如来・貝塚稲荷の三方のうちの貝塚稲荷は貝塚山に上陸。

※「富士見のあゆみ」では、文化7年（1810）、神影正一位貝塚稲荷大明神を奉勧して貝塚山の上に社を建てたとある。

明治40年、四社の合祀



※薬師如来

補記：

「お舟山伝説」 榛名大権現・薬師如来・貝塚稻荷の三方のうちの薬師如来は西の方に。



勝瀬小 校庭片角

■「御水足池（おみたらしいけ）伝説」

勝瀬の榛名神社にまつわる伝説に「御水足池（おみたらしいけ）伝説」があります。水不足、干魃（かんばつ）には、雨乞いとして、御水足池（今は埋めたてられた）より水を汲み、筒、瓶などに入れて神主に祈願してもらい、部落に帰ってこの水をまき、祈ると必ず雨が降ると言われました。

また、この池の水を使っている田んぼのタニシを食べたり、お舟山へ石を投げ込み「カーン」という音を聞くと目を患い失明するといわれていました。そのような時は、お舟山の西方（勝瀬小校庭片角）に鎮座する谷田薬師如来に謝罪してお助けを乞えば、必ず直してくれると伝えられ、眼病の参拝者が多かったといえます。

摂末社： 富士浅間神社

摂末社： 藤塚神社



補記：

「富士浅間太神」寛政4年（1792）と「藤塚神社」寛政6年（1794）の2つの石祠は明治40年にオトウカ山から合祀されたものと伝えられる。

・・・入間東部地域史研究発表会より

※「オトウカ山」と「お舟山」について・・・

富士見市ホームページ「観る・楽しむ・学ぶ」⇒「市内のみどころ」⇒
歴史探訪『ふじみ・発見！』No. 3…「勝瀬に残る山」より全文引用

勝瀬地区は、起伏が少なく比較的平坦な地形ですが、「〇〇山」と呼ばれる山が2つあります。

オトウカ山

ふじみ野西4丁目のオトウカ山公園は、春には色とりどりの花が咲き、夏は大きな木陰があるなど地域の皆さんに親しまれています。公園内の樹木や笹が生い茂る山がオトウカ山です。名前の由来は、その昔、キツネ(お稲荷)が住んでいたことから伝えられています。

一辺約20メートル、高さ約5メートルの方形の人工的な山です。以前は古墳と推定されていましたが、2回の発掘調査の結果と、かつて頂上にあったといわれる石造物(現在は榛名神社に移設)から、富士信仰に伴う富士塚(浅間塚)と考えられます。



オトウカ山公園



昭和30年代のオトウカ山

お舟山

ガーデンビーチから砂川堀を少し上流に向うと、右側(左岸)に長さ約50メートル、幅約25メートル、高さ約2メートルの細長く小さな山があります。これがお舟山です。「榛名権現らが鉄の船に乗ってきた際に沈没した場所である」、「お舟山に棒をさすと鉄の舟にあたり音がする」など、榛名神社創立に関わるものを含めお舟山にはいくつかの言い伝えがあります。この山が人工的なものか自然地形か、いまだわかっていません。



お舟山

案内図



撰末社： 弁財天



巖島神社 大六天神社



疱瘡神社



補記：

「お船山伝説」榛名様・鷲森大権現様・大弁才天女様の三方のうち、弁天様は明治初めまでお船山に鎮座されていましたが、今は榛名神社境内に祀られています。

※鷲森様

補記：

「お船山伝説」榛名様・鷲森大権現様・大弁才天女様の三方のうち、駒林・八幡神社境内と鷲森小学校西方に鎮座されています。



(左) 座駒林・八幡神社境内



(右) 鷲森小学校西方

※榛名神社の創立に関わる方の位置関係図

- ①榛名大権現、②③鷲森大権現、④大弁才天女（境内に遷座）、
⑤薬師如来、⑥貝塚稻荷（境内に合祀）



<補記>

■群馬の榛名神社とは関係が無いと言われています

勝瀬の鎮守榛名神社は、明治初年までは神仏混淆のため神社と言わず、日本藤島榛名満行大権現といって、群馬の榛名神社とは関係が無いと言われています。創建は不明ですが、祭神は土の祖神である埴山姫命と、伊勢の外宮に祀られている五穀豊穰の神、豊受姫命の二柱の女神で、ともに農業の神です。このような神社は近隣にも例がなく、広く稲作農家の信仰を得て、ひいては雨乞いの祈願所となったようです。

<補記>

■お舟山と榛名神社の遠景



<お舟山の裏側の砂川堀から、榛名神社の森の遠景>



<榛名神社側から、お舟山の遠景・・・後ろの木は砂川堀の桜>

「お舟山」の由来の看板 ⇒
※説明文は社務所の掲示と同じ



<補記>

■「はんなさま」：

毎年4月10日に行われている祭りは「はんなさま」と親しまれている。

富士見市ホームページ「観る・楽しむ・学ぶ」⇒「市内のみどころ」⇒
歴史探訪『ふじみ・発見!』No. 11…春を誘う「はんな様」より全文引用

No.11…春を誘う「はんな様」

生涯学習課 内線637

毎年4月10日は、富士見市の市制施行記念日であるとともに、「はんな様」と親しまれている、勝瀬にある榛名神社の例大祭でもあります。

榛名神社の歴史



昭和40年代の「はんな様」

榛名神社の創立年代は明らかではありませんが、文明九年(1477年)に再建した際の棟札があり、室町時代にはあったことがわかります。お舟山伝説、藤島伝説、御水足池(おみたらしのいけ)伝説など多くの言い伝えも残されている神社で、江戸時代には修験道の万宝院が管理していました。

大正～昭和の初めに編さんされた『鶴瀬村郷土誌』には、「四月十日～晴天ナレバ老若男女達遠近ワ開ハズ諸方ヨリ群集シ恰モ立錫ノ余地ナシ故ニ近郷ノ三大祭ノ一ニ数ヘラ」れるほどの祭りであったと記されています。弘化元年(1844年)の本殿石垣を寄進した村には、市内の村をはじめ川越市、ふじみ野市、三芳町、所沢市、志木市、新座市、狭山市の82か村の名が刻まれており、広く知られた神社でした。

例大祭は日中に行われ、屋台では勝瀬囃子保存会による囃子、神楽殿では斉藤社中の里神楽が奉納されるほか、植木市をはじめと多くの露天商が出て、大いに賑わいます。

勝瀬囃子は、明治時代初めにさいたま市大久保領家から伝えられ、踊りは羽沢の神楽師斉藤太夫から教えられたと言われています。囃子の特徴は「屋台」で、昇り調子で歯切れがよく聞いていて景気がいいためケンカ囃子と言われた古囃子です。



里神楽



勝瀬囃子

「はんな様」は、砂川堀の桜並木とともに、春の訪れを感じる行事の一つといえます。

力 石

富士見市ホームページ「観る・楽しむ・学ぶ」⇒「市内のみどころ」⇒
歴史探訪『ふじみ・発見!』No. 15…境内に眠る「力石」より全文引用

No.15…境内に眠る「力石」

生涯学習課 内線637

市内には、現在40か所以上の寺社があります。こうした寺社の境内には、数多くの石造文化財が眠っています。その中でも普段、目に留まることの少ない「力石」(ちからいし)を紹介します。

力石とは…?



榛名神社の力石

市内の神社では、4月、7月～8月に祭礼が行われ、今も露店やお囃子・獅子舞が奉納されにぎわいを見せいています。

その境内の片隅に、縦70～80センチメートル、横50～60センチメートル、厚さ30～40センチメートルほどの楕円形をした何の変哲もない石が転がっていることがあります。表面には「三拾六貫目」や「四拾貫目余」といった重量を表した文字が刻まれています。この石はかつて祭礼や村の年中行事の際に若者が力を競うために使用したものです。一貫3.75キログラムで計算すると、三拾六貫目＝135キログラム、四拾貫目＝150キログラム、中には五拾貫目＝187.5キログラムというものもあります。

現代でいう重量上げに相当しますが、娯楽の少ない当時では遊戯としても盛り上がり、力自慢の若者が集ったことでしょう。

江戸時代中頃～明治時代中頃のものが多く、もとは持ち上げた石が重く感じるか軽く感じるかによって願いの成就を占ったものだという説もあり、氏名や重量を石に刻んで神社に奉納されたものもあります。市内には、六十五貫を担いだとか、八十貫を担いだという昔話も残っています。

この風習も今ではなくなり、力石も散逸している場合が多く、境内にあっても半分埋もれてそれとは判らないものもありますが、説明板を立てて残されているものもあります。祭礼など神社境内を立ち寄った際に探してみてもいかがでしょう。



阿蘇神社の力石

市内で確認された力石

地域	神社・寺社等	数量	重量(キログラム)	備考
勝瀬	榛名神社	3基	約150	3基のうち重量の判明しているものは1基
上沢	薬師堂	2基	約188	2基のうち重量の判明しているものは1基
水子	氷川前 氷川神社	4基	約158・約113 約109・約105	
	城の下 阿弥陀堂	2基	約188	2基のうち重量の判明しているものは1基
	正綱 氷川神社	4基	約150・約169	4基のうち重量の判明しているものは2基
南畑	阿蘇神社	2基	約113	2基のうち重量の判明しているものは1基
	八幡神社	4基	約135・約165 約135・約154	
針ヶ谷	氷川神社	6基	不明	

記念碑

碑A



碑B



碑A：千載不磨せんざい-ふま
明治三十七七八年戦役記念建之

碑B：烈偉い-れつ
明治三十七七八年戦役記念建之

碑C：榛名神社拝殿屋根改修記念
昭和五拾参年拾貳月 施工

碑D：敷石改修記念
昭和五十四年七月吉日

碑E：社務所改築記念
昭和八年卯月十日

碑C



碑D



碑E





8 宇治川合戦先陣の図絵馬（榛名神社蔵）

・・・富士見市史 通史編 上巻の口絵から・・・

記載日：2014/1/5

この内容は、「神社の説明文」と「郷土富士見検定問題集」「郷土富士見検定問題集 第二集」、「富士見市史」、「富士見のあゆみ」、「ふじみの伝説・昔ばなし」、「富士見市ホームページ」等から、記載しています。

なお、ダウンロードpdfの関係を考慮して、勝手ではありますが「富士見市ホームページ」はリンクではなく全文の「貼付」とさせて頂きました。